

海外の畜産物の需給動向

牛肉

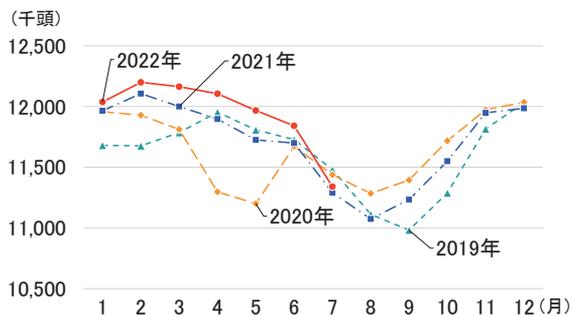
米国

干ばつなどによる牛群の縮小により牛の供給はひっ迫予測

牛総飼養頭数は前年比2.0%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2022年6月のフィードロット導入頭数は162万9000頭（前年同月比2.4%減）とわずかに減少し、出荷頭数は206万1000頭（同2.0%増）とわずかに増加したことから、22年7月1日時点のフィードロット飼養頭数は1134万頭（同0.4%増）と前年同月をわずかに上回った（図1）。

図1 フィードロット飼養頭数の推移



資料：USDA「Cattle on Feed」
注1：1000頭以上規模のフィードロットが対象。
注2：各月1日時点。

USDA/NASSが半年に一度公表する「Cattle」によると、7月1日時点の牛総飼養頭数は9880万頭（前年比2.0%減）となった（表1）。今年に入ってから続いている深刻な干ばつにより生産者は繁殖雌牛の淘汰を進めており、肉用繁殖雌牛の飼養頭数は同

表1 種類別牛飼養頭数の推移

（単位：千頭）

	2021年	2022年	前年比 （増減率）
総飼養頭数	100,800	98,800	▲ 2.0%
繁殖雌牛	40,600	39,800	▲ 2.0%
肉用牛	31,100	30,350	▲ 2.4%
乳用牛	9,500	9,450	▲ 0.5%
未経産牛 ※1	15,900	15,600	▲ 1.9%
肉用繁殖後継牛	4,300	4,150	▲ 3.5%
乳用繁殖後継牛	3,800	3,750	▲ 1.3%
その他	7,800	7,700	▲ 1.3%
去勢牛 ※1	14,600	14,400	▲ 1.4%
種雄牛 ※1	2,000	2,000	0.0%
子牛 ※2	27,700	27,000	▲ 2.5%

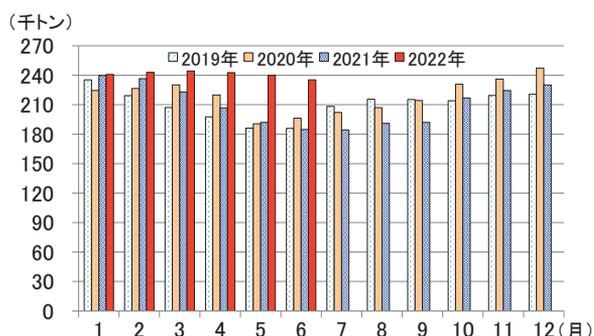
資料：USDA「Cattle」
注1：表中の※1は500ポンド（約227キログラム）以上、※2は500ポンド未満。
注2：各年7月1日現在。

2.4%減、肉用繁殖後継牛は同3.5%減となっている。現地報道によると、干ばつ以外にも生産者は肥料費、燃料費など投入コストの上昇に直面しており、23年まで牛の供給はひっ迫すると予測されている。

牛肉在庫量は大幅に増加

USDA/NASSによると、2022年6月の牛肉在庫量は23万5400トン（前年同月比27.4%増）となり、1月以降、前年同月を上回って推移している（図2）。現地報道によると、牛肉在庫増加の要因として、第2四

図2 牛肉の期末在庫の推移



資料：USDA「Cold Storage」

半期の牛肉生産量の増加に加え、安定供給や今後の輸出に対処するため、食肉処理・加工業者が一定量の在庫を抱えていることが要因とされている。

牛肉輸出は引き続き堅調

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2022年5月の牛肉輸出量は14万5588トン（前年同月比2.1%増）と依然として堅調に推移し、5月単月の輸出量として

は過去最高となった（表2）。これについて米国食肉輸出連合会（USMEF）のホルストロム会長は、「ドル高や輸送・物流の課題などに直面している中で、主要輸出先である日本、韓国向け輸出量が減少したにもかかわらず総輸出量が増加したことは、米国産牛肉が多くの市場から支持されていることの表れ」と述べた。

主要輸出先別に見ると、5月首位の日本向けは同5.6%減とやや減少し、2位の韓国向けは同7.1%減とかなりの程度減少した。一方で、3位の中国向けは大都市の一部で新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によるロックダウンが行われたにもかかわらず、同16.7%増と大幅に増加している。また、口蹄疫の影響で国内生産が減少しているインドネシア向け輸出の大幅増など、アジアや中南米などの小規模市場からの堅調な需要により輸出は好調に推移している。

表2 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2021年 5月	2022年 5月	前年同月比 (増減率)	シェア	2022年 (1～5月)	
					前年同月比 (増減率)	前年同月比 (増減率)
日本	36,460	34,430	▲5.6%	23.6%	150,839	▲3.6%
韓国	36,590	33,981	▲7.1%	23.3%	157,483	2.0%
中国	21,400	24,976	16.7%	17.2%	115,193	40.3%
メキシコ	10,847	11,442	5.5%	7.9%	50,629	▲18.4%
カナダ	11,293	11,098	▲1.7%	7.6%	50,827	▲1.1%
台湾	7,540	7,921	5.1%	5.4%	44,191	35.3%
香港	4,995	2,795	▲44.0%	1.9%	11,677	▲55.4%
インドネシア	1,229	2,529	105.7%	1.7%	9,536	83.0%
フィリピン	1,684	2,316	37.5%	1.6%	9,145	12.5%
その他	10,502	14,100	34.3%	9.7%	67,596	31.3%
合計	142,539	145,588	2.1%	100.0%	667,118	5.9%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注：枝肉重量ベース。

（調査情報部 上村 照子）

飼料費の高騰などから2022年1～5月の牛肉生産量は前年同期並み

2022年1～5月の牛肉生産量、前年同期並み

欧州委員会によると、2022年1～5月の牛肉生産量（EU27カ国）は、前年同期並みの274万1920トン（前年同期比0.0%増）となった（表1）。同期間の牛肉生産量を国別に見ると、スペイン（同6.9%増）、イタリア（同7.6%増）、アイルランド（同9.3%増）が増加となった一方で、フランス（同4.0%減）、ドイツ（同8.5%減）などの減少により相殺される形となった。

欧州委員会は、7月7日に公表した農畜産物の短期的需給見通しの中で、飼料をはじめとする資材費の高騰が少なくとも22年末までは続き、その結果、肥育牛の早期出荷によりと畜頭数は増加するものの、1頭当たり枝肉重量の減少から同年の牛肉生産量を前年比0.5%減と見込んでいる。

表1 主要生産国別牛肉生産量の推移

（単位：千トン）

	2021年 (1～5月)	2022年 (1～5月)	前年同期比 (増減率)
フランス	592	568	▲ 4.0%
ドイツ	438	401	▲ 8.5%
スペイン	298	319	6.9%
イタリア	280	301	7.6%
アイルランド	231	253	9.3%
ポーランド	226	228	0.9%
オランダ	171	171	0.4%
その他	504	501	▲ 0.7%
合計	2,741	2,742	0.0%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注：枝肉重量ベース。

英国向けの牛肉輸出量が大幅に増加

2022年1～5月のEUの冷蔵および冷凍牛肉輸出量は、17万1205トン（前年同期比3.2%減）とやや減少した（表2）。このうち、冷蔵牛肉は9万6815トン（同2.9%減）とわずかに減少し、冷凍牛肉も7万4390トン（同3.6%減）とやや減少した。最大の輸出先である英国向けの輸出量（冷蔵および冷凍）は8万8682トン（同16.6%増）となった。この他、冷蔵牛肉では、英国向け以外にもスイス向けなどが増加したが、ボスニア・ヘルツェゴビナ向け、ノルウェー向けの減少分を埋め合わせるまでには至らなかった。冷凍牛肉では、英国向け以外に日本やカナダ向けなどが増加したものの、フィリピン向けなどの減少の影響が大きかった。

一方で、22年1～5月の冷蔵および冷凍牛肉輸入量は10万5076トン（同32.2%増）と大幅に増加した（表3）。EUの牛肉自給率は100%を超えており、この余剰分を輸出に向けているが、他方で輸出量の半分程度を輸入している。最大の輸入先は英国で、輸入量全体の34.2%を占めた。日本からの輸入量は同1.0%とわずかではあるものの、1089トン（同233.0%増）と前年同期の3倍以上となった。EUの経済活動の再開に伴い徐々に和牛の流通が拡大したものとみられる。

前述の短期的需給見通しによると、22年のEUの牛肉輸出量は、EU域内の牛肉価格が比較的高いことから制約を受けるものの、前年比4.0%増と見込んでいる。また、輸入については、外食産業の再開やブラジル、アル

ゼンチンからの輸入増から、同15.0%増と見込んでいる。

表2 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

品目	輸出先	2021年 (1～5月)	2022年 (1～5月)	前年同期比
				(増減率)
冷蔵	英国	56,590	59,041	4.3%
	ボスニア・ヘルツェゴビナ	12,401	10,721	▲ 13.5%
	スイス	6,893	8,743	26.8%
	ノルウェー	10,160	7,132	▲ 29.8%
	その他	13,690	11,178	▲ 18.3%
	合計	99,734	96,815	▲ 2.9%
冷凍	英国	19,444	29,641	52.4%
	フィリピン	10,528	8,589	▲ 18.4%
	日本	3,593	5,084	41.5%
	カナダ	3,320	4,624	39.3%
	その他	40,313	26,452	▲ 34.4%
	合計	77,198	74,390	▲ 3.6%
冷蔵・冷凍計		176,932	171,205	▲ 3.2%

資料：「Global Trade Atlas」

注：冷蔵のHSコードは0201、冷凍のHSコードは0202。

表3 輸入先別牛肉輸入量の推移

(単位：トン)

品目	輸出先	2021年 (1～5月)	2022年 (1～5月)	前年同期比
				(増減率)
冷蔵	英国	16,067	29,366	82.8%
	アルゼンチン	12,018	16,911	40.7%
	ウルグアイ	8,608	9,351	8.6%
	ブラジル	4,370	5,254	20.2%
	米国	3,796	5,223	37.6%
	オーストラリア	3,372	2,659	▲ 21.1%
	日本	327	1,089	233.0%
	その他	8,924	11,004	23.3%
	合計	49,987	71,886	43.8%
冷凍	ブラジル	16,207	18,213	12.4%
	英国	4,728	6,589	39.4%
	ウルグアイ	5,446	3,935	▲ 27.7%
	アルゼンチン	1,335	1,180	▲ 11.6%
	ニュージーランド	768	1,024	33.3%
	その他	1,004	2,249	124.0%
	合計	29,488	33,190	12.6%
冷蔵・冷凍計		79,475	105,076	32.2%

資料：「Global Trade Atlas」

注：冷蔵のHSコードは0201、冷凍のHSコードは0202。

(調査情報部 渡辺 淳一)

豪州

牛肉輸出量、低迷も2カ月連続で前年同月比増

肉牛取引価格は引き続き下落傾向で推移

肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、2022年7月も下落傾向が継続し、同月26日時点で1キログラム当たり892豪セント（858円：1豪ドル＝96.20円^{（注1）}）と、21年5月以来の同900豪セントを下回る水準となった（図）。

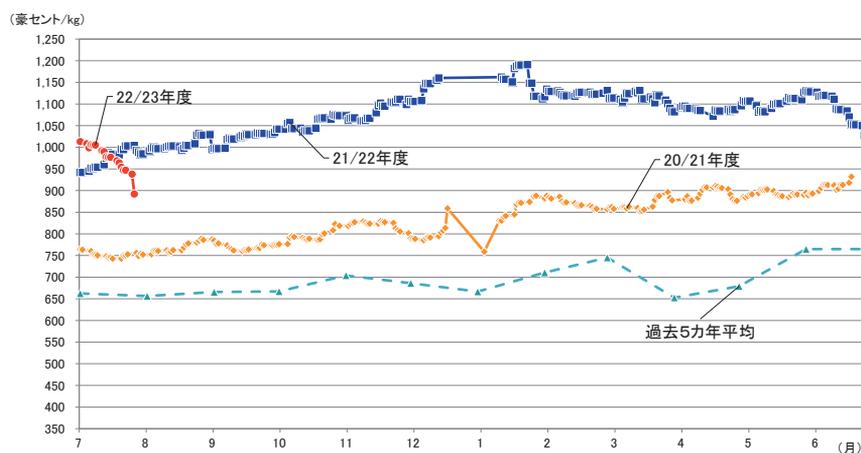
現地報道によると、この急激な下落は、インドネシアで発生している口蹄疫の豪州国内への侵入に対する懸念のほか、穀物価格の上昇が肥育業者の肉牛購買意欲を鈍化させていること、また、労働力不足を背景とした食肉

処理に関する懸念なども影響しているとしている。さらに、同価格はクィーンズランド州で特に下落幅が顕著であり、これはインドネシア向けを中心とした生体牛輸出の落ち込みが関係しているとしている。

他方で豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、昨今の多雨により家畜市場に供給される肉牛の品質にばらつきがあることや、食肉処理施設における従業員のCOVID-19やインフルエンザによる欠勤を含めた労働力不足が、肉牛価格の下落に影響しているとしている。

（注1） 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年7月末TTS相場。

図 EYCI価格の推移



資料：MLA

注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クィーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

牛肉輸出量は米国を除く主要国で前年同月比増

豪州農林水産省（DAFF）^{（注2）}によると、2022年6月の牛肉輸出量は7万9553トン

（前年同月比8.2%増）とかなりの程度増加し、2カ月連続で前年同月を上回ったものの、依然として低い水準で推移している（表）。この要因について現地報道では、これまでと同じく、コンテナ確保などの物流に関する課

題や労働力不足を背景に食肉処理施設の稼働率が低いことなどが挙げられている。

輸出先別に見ると、最大の輸出先である日本向けは2万2508トン（同7.2%増）とかなりの程度増加しているが、22年上半期（1～6月）の累計では10万8510トン（前年同期比3.0%減）とやや減少している。

中国向けは1万3956トン（前年同月比18.6%増）と大幅に増加しており、1～6月の累計でも7万3078トン（前年同期比

1.3%増）とわずかに増加している。一方で現地報道によると、中国市場で優位にあった豪州産牛肉は南米産の安価な牛肉に押されており、米国産については豪州産の市場シェアを抜いたとされている。

（注2）22年7月1日から、従前の豪州農業・水・環境省（DAWE）はエネルギー部門を統合した上で、農林水産省（DAFF）と気候変動・エネルギー・環境・水省（DCCEEW）に再編されている。詳細は、海外情報「新政権、バイオセキュリティなどの農業政策に着手（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003309.html）を参照されたい。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2021年 6月	2022年 6月	前年同月比 (増減率)	2022年	前年同期比
				(1～6月)	(増減率)
日本	21,000	22,508	7.2%	108,510	▲ 3.0%
韓国	12,480	14,067	12.7%	70,984	▲ 6.8%
中国	11,769	13,956	18.6%	73,078	1.3%
米国	12,163	10,887	▲ 10.5%	58,761	▲ 9.9%
東南アジア	8,025	9,378	16.9%	41,385	▲ 13.9%
中東	2,288	2,830	23.7%	13,116	▲ 11.4%
E U	435	641	47.2%	3,802	▲ 3.2%
その他	5,391	5,287	▲ 1.9%	28,840	▲ 4.4%
輸出量合計	73,551	79,553	8.2%	398,475	▲ 5.7%

資料：DAWE

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアの合計。

注3：中東は、イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦を構成する七つの首長国のうち四つの首長国（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ）の合計。

（調査情報部 国際調査グループ）

N Z

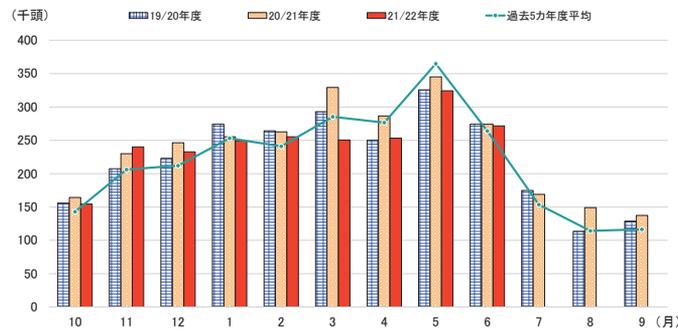
2021/22年度の牛肉生産量、輸出量ともに前年度を下回る見通し

2022年6月の牛と畜頭数、前年よりわずかに減少

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2022年6月の牛と畜頭数は27万1781頭（前年同月比0.8%減）とわずかに

減少した（図）。牛と畜頭数の内訳を見ると、経産牛（12万5771頭、同5.0%増）、雄牛（3万8306頭、同5.7%増）とそれぞれやや増加した。一方で、去勢牛（5万8270頭、同9.8%減）、未經産牛（4万9434頭、同7.5%減）がかなりの程度減少した。また、

図 牛と畜頭数の推移



資料：Stats NZ
注：年度は10月～翌9月。

21/22年度（10月～翌9月）の10月～翌6月の累計でも223万1918頭（前年同期比6.8%減）とかなりの程度減少した。

2022年6月の牛肉輸出量、日本向けは増加

Stats NZによると、2022年6月の牛肉

輸出量は4万8071トン（前年同月比6.6%減）とかなりの程度減少した(表1)。内訳は、冷蔵牛肉が3104トン（同12.7%減）、冷凍牛肉が4万4967トン（同6.1%減）となった。

主要輸出先別に見ると、最大の輸出先である中国向けは、現地の好調な食肉需要を背景に2万1027トン（同1.7%増）とわずかに

表1 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2021年 6月	2022年 6月	前年同月比 (増減率)	2021/22年度 (10～翌6月)	
				2021/22年度 (10～翌6月)	前年同期比 (増減率)
中国	20,678	21,027	1.7%	159,277	3.9%
冷蔵	1,053	937	▲ 11.1%	8,479	11.1%
冷凍	19,625	20,090	2.4%	150,798	3.5%
米国	16,849	13,971	▲ 17.1%	104,002	▲ 18.8%
冷蔵	683	483	▲ 29.4%	5,532	4.5%
冷凍	16,165	13,488	▲ 16.6%	98,470	▲ 19.8%
台湾	2,352	1,356	▲ 42.4%	12,667	▲ 11.7%
冷蔵	116	23	▲ 80.1%	510	▲ 53.6%
冷凍	2,236	1,333	▲ 40.4%	12,157	▲ 8.2%
日本	3,903	4,212	7.9%	26,337	14.6%
冷蔵	554	519	▲ 6.2%	4,883	▲ 5.8%
冷凍	3,349	3,693	10.3%	21,454	20.5%
韓国	1,372	2,853	108.0%	18,939	37.9%
冷蔵	1	2	131.0%	136	▲ 12.2%
冷凍	1,371	2,851	108.0%	18,803	38.4%
カナダ	295	467	58.5%	7,287	▲ 28.7%
冷蔵	145	49	▲ 66.3%	799	28.5%
冷凍	149	418	179.8%	6,488	▲ 32.4%
その他	6,006	4,186	▲ 30.3%	36,975	▲ 8.0%
冷蔵	1,328	1,091	▲ 17.8%	9,216	▲ 11.6%
冷凍	5,005	3,094	▲ 38.2%	27,759	▲ 4.8%
合計	51,455	48,071	▲ 6.6%	365,484	▲ 4.5%
冷蔵	3,554	3,104	▲ 12.7%	29,555	▲ 2.8%
冷凍	47,901	44,967	▲ 6.1%	335,929	▲ 4.5%

資料：Stats NZ
注1：船積重量ベース。
注2：年度は10月～翌9月。

増加した。また、日本向けは4212トン（同7.9%増）、韓国向けは単月としては過去最高となる2853トン（同108.0%増）を記録するなど、アジア向けが好調に推移した。これは、牛群再構築に伴う豪州産牛肉の生産量減少による相場の高騰などにより、冷凍を中心にNZ産牛肉への引き合いが強まったことが要因として挙げられる。一方で、米国向けは1万3971トン（同17.1%減）と大幅に減少した。現地報道によると、米国国内で発生した干ばつの影響による牛のと畜頭数増加に伴い、米国の牛肉生産量が増加したことが要因とされている。

2021/22年度の輸出向け牛と畜頭数はわずかに減少する見込み

ビーフ・アンド・ラム・ニュージーランド（BLNZ）が公表した「Mid-Season Update 2021-22」によると、2021/22

年度の輸出向け牛と畜頭数は、275万6000頭（前年度比1.8%減）とわずかに減少すると見込まれている（表2）。内訳を見ると、雄牛を除いていずれも減少しており、このうち去勢牛と未經産牛は前年度の増加基調の反動から、経産牛は生産者乳価が高い水準で推移したことで酪農部門での保留傾向が強まったことなどが要因とされている。この結果、牛肉生産量は70万4000トン（同1.8%減）とわずかに減少が見込まれている。また、牛肉輸出量は、牛肉生産量の減少に伴い49万3000トン（同1.8%減）と同程度の減少が見込まれている。

一方で、世界的な牛肉需給は引き続き逼迫すると予測されているほか、米ドル高で推移している為替相場が後押しとなり、輸出額は20/21年を上回る高水準で推移すると見込まれている。

表2 輸出向け牛と畜頭数などの見通し

	単位	2018/19年度	2019/20年度	2020/21年度	2021/22年度	
						前年度比
と畜頭数	千頭	2,612	2,674	2,806	2,756	▲1.8%
うち去勢牛	千頭	565	588	669	660	▲1.3%
未經産牛	千頭	474	491	550	520	▲5.5%
雄牛	千頭	555	546	553	558	0.9%
経産牛	千頭	1,018	1,048	1,034	1,018	▲1.5%
生産量	千トン	662	679	717	704	▲1.8%
うち去勢牛	千トン	177	184	208	206	▲1.0%
未經産牛	千トン	115	120	134	126	▲6.0%
雄牛	千トン	166	163	166	168	1.2%
経産牛	千トン	204	212	209	204	▲2.4%
1頭当たり枝肉重量	キログラム	254	254	256	255	▲0.4%
輸出量	千トン	453	465	502	493	▲1.8%
輸出金額	百万NZドル	3,377	3,810	3,854	4,331	12.4%
輸出単価	NZドル/トン	7,451	8,186	7,674	8,781	14.4%

資料：BLNZ

注1：2021/22年度は予測値。

注2：生産量は枝肉重量ベース。輸出量は船積重量ベース。

（調査情報部 工藤 理帆）

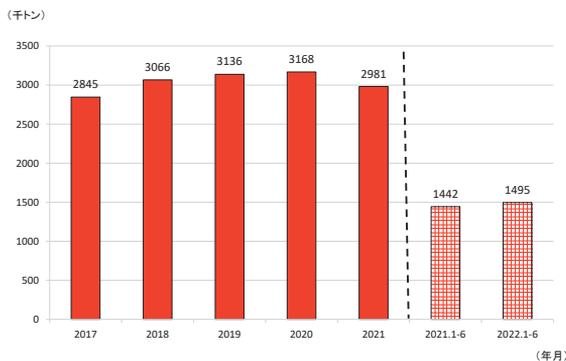
アルゼンチン

2022年1～6月の牛肉輸出量、前年同期をわずかに上回って推移

2022年1～6月の牛肉生産量、前年同期比3.7%増

アルゼンチン農牧漁業省によると、2022年1～6月の牛肉生産量は、149万5000トン（前年同期比3.7%増）と前年同期をやや上回った（図1）。また、同期間の牛と畜頭数は、648万4000頭（同2.1%増）となった。21年の牛肉生産量は、牛群が縮小局面にあることや、5月に牛肉輸出制限措置が講じられ生産者がと畜を控えたことなどから5年ぶりに減少したが、22年は再び増加傾向で推移している。

図1 牛肉生産量の推移



資料：アルゼンチン農牧漁業省
注：枝肉重量ベース。

一方で、米国農務省によると、22年のアルゼンチンの牛肉生産量は前年をわずかに下回ると見込まれている。これは、20年、21年の子牛出生頭数が少ないことや、2年連続のラニーニャ現象の発生により多くの地域で乾燥気候となり、特に年初に北部や中東部で高温や厳しい干ばつに見舞われ、穀物や牧草に被害が発生し、肉用牛生産に影響を及ぼしたことなどが要因であるとしている。

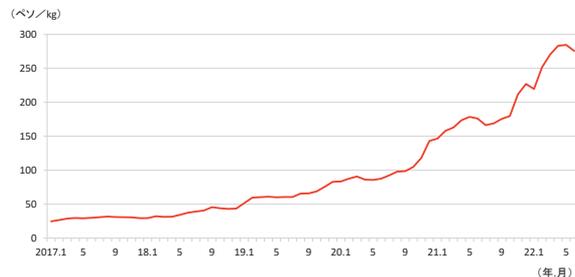
肥育牛（去勢）出荷価格は上昇傾向で推移

肥育牛（去勢）の出荷価格（アルゼンチンペソ建て）は、近年の堅調な牛肉の輸出需要に加えてインフレの進行などもあって上昇傾向で推移した。同国の肉用牛相対取引の指標であるリニエルス家畜市場における2022年6月の出荷価格は、前年同月比56.6%高の1キログラム当たり275.65ペソ（約292円：1ペソ＝1.06円^(注)）となった（図2）。

堅調な肉用牛価格の下、放牧主体の肉用牛農家の経営は良好な状況を維持しているが、一方、フィードロット経営は、飼料穀物価格高により生産コストが上昇したため、その多くは状況が良くないとされている。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」2022年7月末TTS相場。

図2 肥育牛（去勢）の出荷価格の推移



資料：アルゼンチン農牧漁業省
注：リニエルス家畜市場における肥育牛（去勢）生体1キログラム当たりの価格。

牛肉輸出量は中国向けが全体の4分の3程度を占める

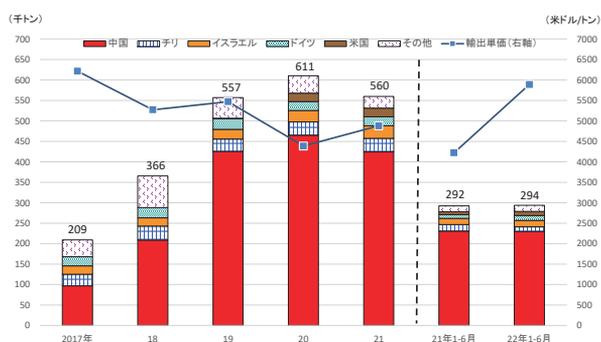
アルゼンチン国家統計院（INDEC）によ

ると、2022年1～6月の牛肉輸出量は、29万3755トン（前年同期比0.5%増）とわずかに上回った（図3）。牛肉輸出量は近年、中国からの需要により急速に増加したが、21年は生産量の減少や牛肉輸出制限措置などにより6年ぶりに減少した（55万9817トン、前年比8.3%減）。

輸出先別で見ると、中国向けは22万9820トン（同0.4%減）と前年同期をわずかに下回った。同国向けは、21年後半から減少傾向に転じ、21年は前年比8.8%減となった。しかしながら、同国向けは全体の4分の3程度を占めており、引き続きアルゼンチンの牛肉輸出をけん引している。このほか米国向け（同44.0%増）、ドイツ向け（同26.1%増）は大幅に増加する一方で、チリ向け（同28.5%減）は大幅に減少した。

アルゼンチン政府は、国内市場に安価な牛肉を提供することを目的として、国内で需要の見込まれる枝肉、アサド（バラ）など牛肉7部位の輸出停止（23年末まで継続）などの規制を講じており、牛肉輸出に影響を及ぼしている。

図3 牛肉輸出量および輸出単価の推移



資料：INDEC
注：製品重量ベース。

（調査情報部 井田 俊二）

豚 肉

メキシコ

2022年の豚肉生産量、前年比6.4%増の見込み

豚肉生産量、増加傾向で推移

米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は3月29日、2022年のメキシコの豚肉需給見通しを発表した。これによると世界的な燃料・飼料費の高騰などインフレが進む中で、22年の豚肉生産量は158万トン（前年比6.4%増）とかなりの程度増加すると予測されている（表1）。メキシコでのCOVID-19対策として実施されたレストランなど外食産

業への規制が緩和されたことによる国内需要の高まりや、米国をはじめ世界的な需要量の増加が主な要因とされている。豚肉生産量の増加が予測される中でメキシコでは、中米で発生したアフリカ豚熱の侵入リスクの高まりを受け、主要養豚地域である中部ハリスコ州の中小生産者を対象に、保険基金の設立に向けた協議や異なる地域への豚群の分散化によるリスク軽減への取り組み、バイオセキュリティの強化が行われている。

表1 メキシコの豚肉需給の推移

(単位：千頭、千トン、%)

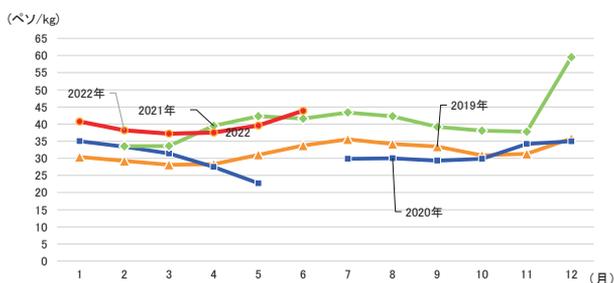
	2020年	2021年	2022年	前年比 (増減率)
と畜頭数	19,000	19,700	20,600	4.6%
供給量	2,396	2,635	2,835	7.6%
生産量	1,451	1,485	1,580	6.4%
輸入量	945	1,150	1,255	9.1%
輸出量	344	330	385	16.7%
消費量	2,052	2,305	2,450	6.3%

資料：USDA Gain Report

注1：2022年は予測値。

注2：枝肉重量ベース。

図 生体豚価格の推移



資料：SNIIM

注：2020年6月、2021年1月は未発表

生体豚価格、上昇傾向で推移

USDA/FASによると、メキシコではCOVID-19からの回復により、一世帯当たりの豚肉消費が増え、2022年の消費量は245万トン（前年比6.3%増）とかなりの程度増加すると予測されている。メキシコの豚肉消費の特徴として、ピステク（薄切りしたステーキ肉）、ポークチョップ（骨付き肉）、もも肉の切り落としなどの低価格部位の消費が7割近くを占めているが、さらなる食品価格の高騰によっては消費の伸びが抑えられる可能性もあるとされている。

メキシコ国家情報市場統合システム（SNIIM）によると、22年の国内の生体豚価格は前年末の異常な高騰から落ち着きを見せて推移しており、季節的な変動で5月以降は上昇に転じ、6月は1キログラム当たり43.89ペソ（335円：1ペソ＝7.64円^{（注）}）と前年同月比5.5%高となった（図）。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年7月末TTS相場。

1～4月の豚肉輸出量、日本、米国向けが増加も全体では減少傾向で推移

USDA/FASによると、2021年の豚肉輸出量は23万1000トン（前年比2.3%増）とわずかに増加したが、22年1～4月の輸出量は6万6100トン（前年同期比25.0%減）と大幅に減少している（表2）。これは、前年の輸出量が第2位であった中国向けが、同国内生産の回復から輸入需要が減退し、5500トン（同84.9%減）と大幅に減少した影響が大きい。一方で、主要輸出先である日本向けは4万5500トン（同12.6%増）、米国向けは1万3200トン（同49.6%増）とそれぞれ増加し、メキシコ産豚肉に対する需要は堅調である。

表2 輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：千トン)

	2020年	2021年	2021年		2021年 (1～4月)	2022年 (1～4月)	2022年	
			前年比 (増減率)	シェア			前年同期比 (増減率)	シェア
日本	117.4	131.6	12.1%	57.0%	40.4	45.5	12.6%	68.9%
中国	79.8	60.4	▲24.3%	26.1%	36.3	5.5	▲84.9%	8.3%
米国	24.6	33.2	35.0%	14.4%	8.8	13.2	49.6%	19.9%
韓国	3.6	5.5	53.3%	2.4%	2.4	1.6	▲33.9%	2.4%
その他	0.4	0.3	▲31.9%	0.1%	0.25	0.3	36.5%	0.5%
合計	225.8	231.0	2.3%	100.0%	88.1	66.1	▲25.0%	100.0%

資料：Global Trade Atlas、メキシコ税関管理局、ITC (International Trade Center)

注1：HSコード0203。製品重量ベース。

注2：2021年12月以降の数値については未公表のため、ITCのミラーデータを使用。

(調査情報部 伊藤 瑞基)

ブラジル

2021年の豚肉輸出量は4年連続の増加、22年は減少傾向で推移

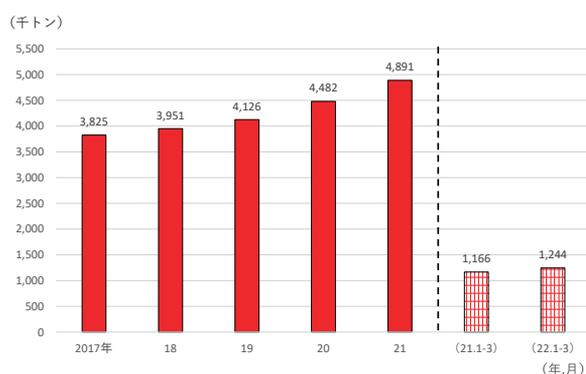
2021年の豚肉生産量、堅調な需要を背景に前年に続き増加

ブラジル地理統計院 (IBGE) によると、2021年のブラジルの豚肉生産量は489万1000トン (前年比9.1%増) と前年をかなりの程度上回った (図1)。これは、中国でのアフリカ豚熱発生に伴う減産分を補うため、ブラジルからの輸入需要が発生したことや、20年以降、生体豚および豚肉価格が上

昇し、その後も高水準で推移したことなどから生産者の増頭意欲が高まったためである (図2)。さらに、COVID-19の影響による経済状況の悪化に伴い、国内市場では牛肉よりも安価な豚肉や鶏肉などに需要がシフトしたことも生産量の増加を後押しした。

22年1～3月の豚肉生産量は、124万4000トン (前年同期比6.8%増) と前年同期をかなりの程度上回った。また、豚と畜頭数は、1364万2000頭 (同7.2%増) と統

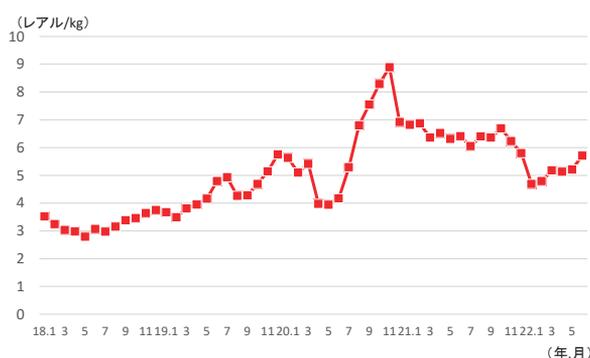
図1 豚肉生産量の推移



資料：IBGE

注：枝肉重量ベース。

図2 豚肉価格の推移



資料：サンパウロ大学農学部応用経済研究所 (CEPEA)

注：パラナ州における生体取引価格。

計を開始した97年以降、同期間で最多となった。

ただし、堅調な需要を背景に増産傾向が続く一方で、生産者の経営は豚肉生産コストの約8割を占める飼料価格の上昇により収益性が低下している。

2021年豚肉輸出量、初の100万トン超え

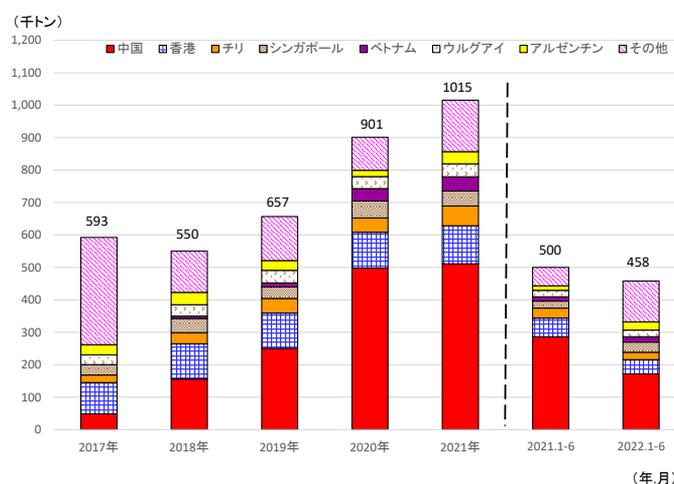
ブラジル開発商工省貿易局（SECEX）によると、2021年の豚肉輸出量（冷蔵・冷凍）は、101万5174トン（前年比12.7%増）と4年連続で増加し、初めて100万トンを超えた（図3）。海外からの堅調な需要に加え、米ドルに対するレアル安の為替水準もプラスに働いた。

輸出先別に見ると、近年輸出が急増し全体の約5割を占める中国向けは、51万830トン（同2.6%増）とわずかな増加にとどまった。同国向けは、アフリカ豚熱に伴う減産分を補うための輸入需要により増加傾向で推移

したが、21年後半に入り豚飼養頭数の回復に伴い豚肉需給が緩和したため、後半の輸出量は減少した。その一方で、チリ（同38.4%増）、アルゼンチン（同90.8%増）、フィリピン（同7.4倍）向けなどが大幅に増加した。

22年1～6月の豚肉輸出量は、45万8091トン（前年同期比8.4%減）とこれまでの増加傾向から一転して前年同期をかなりの程度下回った。これは、これまでブラジルの豚肉輸出をけん引していた中国向けが、豚肉需給の緩和に伴い17万1897トン（同40.0%減）と大幅に減少したためである。中国向け輸出の減少が顕著となる一方で、シンガポール（同44.0%増）、ベトナム（同28.3%増）、アルゼンチン（同74.8%増）向けなど中国以外の地域への輸出が増加している。この結果、同期間の輸出量に占める中国向けの割合は37.5%となり、前年同期（57.3%）から19.8ポイント低下した。

図3 豚肉輸出量の推移



資料：SECEX
注：製品重量ベース。

（調査情報部 井田 俊二）

牛乳・乳製品

米 国

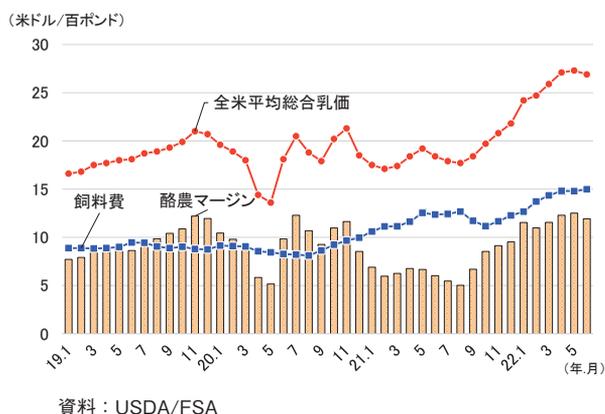
チーズの輸出好調、5月は過去最高を記録

生乳生産量、8カ月ぶりに前年同月を上回る

米国農務省農場サービス局（USDA/FSA）によると、2022年6月の全米平均総合乳価は、生乳100ポンド当たり26.9米ドル（1キログラム当たり80.42円：1米ドル＝135.61円^(注1)、前年同月比46.2%高）となり、先月からわずかに下落したものの、高水準で推移している（図1）。また、飼料費も上昇する中で、それを上回る乳価水準にあることから、同月の酪農マージン^(注2)は前年同月比97.7%増の同11.92米ドル（同35.64円）と拡大している。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均為替相場」の2022年7月末TTS相場。
（注2）酪農家のセーフティーネット制度である酪農マージン保障プログラム（DMC）で算定される全米平均総合乳価と飼料費の差額としての収益。DMCでは、酪農マージンが発動基準を下回った場合、補填が発動される。

図1 酪農マージンの推移



資料：USDA/FSA

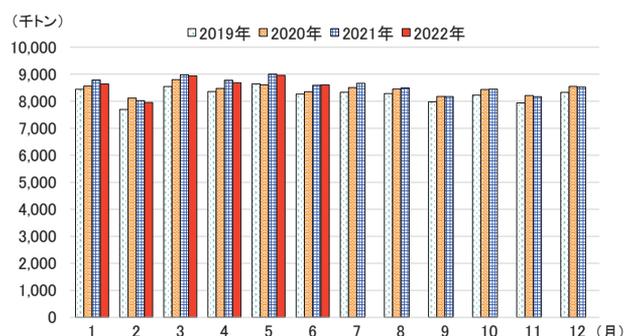
米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、22年6月の乳用経産牛飼養頭数は、前年同月比0.8%減の942万3000頭と9カ月連続で前年同月を下回った（図2）。しかしながら、22年1月以降は増加傾向で推移しており、1頭当たりの乳量も増加したため、6月の生乳生産量は860万7000トン（同0.2%増）と、8カ月ぶりに前年同月を上回った（図3）。国内外の需要を背景に乳価が高騰していることが経産牛頭数および生乳生産量の増加につながったとみ

図2 乳用経産牛飼養頭数の推移



資料：USDA/NASS [Milk Production]

図3 生乳生産量の推移



資料：USDA/NASS [Milk Production]

られるが、飼料費に加えて燃料費や人件費などの生産コストも上昇しているため、さらなる拡大は限定的になると思われる。

チーズの輸出が好調

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2022年5月の乳製品輸出量は、バターや脱脂粉乳が前年同月比で減少したものの、チーズの大幅な伸びから乳製品全体としては好調に推移し、5月の輸出量としては過去最大を記録した（表）。

品目別に見ると、チーズは日本、韓国、メキシコ向けの輸出量が増加した。米国乳製品輸出協会（USDEC）によると、世界的な生

乳生産量の減少により、欧州およびNZからのチーズ供給量が減少する中で、米国産の需要が増加したものとしている。また、隣国メキシコや中米のチーズ需要が大きいことも一因としている。ただし、米ドル高で推移する為替相場を背景に、ここ数カ月維持してきた米国産の価格優位性が弱まってきており、今後の動向が注視されている。

一方、主要輸出製品である脱脂粉乳の輸出量は減少している。USDECによると、これは輸出需要の減退ではなく米国内の供給不足が要因としており、脱脂粉乳やバターに仕向けられる生乳の割合が増えるまでの間は、輸出量の増加は見込めないとしている。

表 主要乳製品輸出量の推移

（単位：千トン）

	2021年 5月	2022年 5月	前年同月比 (増減率)	2022年 (1～5月)	
				前年同期比 (増減率)	
脱脂粉乳	88.7	80.4	▲9.4%	356.9	▲8.1%
乳糖	37.7	43.7	16.0%	179.3	9.4%
チーズ	30.8	40.4	31.0%	185.8	13.6%
ホエイ	21.3	16.3	▲23.4%	79.8	▲22.5%
WPC	10.4	15.8	51.1%	67.3	14.4%
バター	4.4	4.0	▲8.2%	23.2	17.4%

資料：USDA「Dairy Data」

注：製品重量ベース。

（調査情報部 上村 照子）

E U

生乳取引価格は引き続き過去最高値を更新

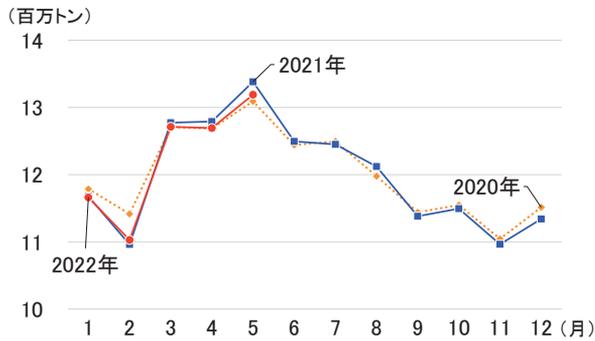
5月の生乳出荷量、前年同月比1.4%減

欧州委員会によると、2022年5月の生乳出荷量（EU27カ国）は、1318万9660トン（前年同月比1.4%減）と前年同月をわず

かに下回った（図1、表）。

同月の生乳出荷量を国別に見ると、ベルギー（同0.9%増）がわずかに増加、ポーランド（同0.0%増）が前年同月並みとなった一方で、出荷量上位3カ国のドイツ（同1.8%減）、フランス（同1.9%減）、オランダ

図1 生乳出荷量の月別推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
 注1：直近月は速報値。
 注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

(同0.8%減)をはじめ、その他の国でいずれも前年同月をやや下回った。

欧州委員会が7月7日に公表した農畜産物の短期的需給見通しでは、春先の高温で乾燥した気候が経産牛にストレスを与えたことや、熱波の影響による牧草の生育不良や飼料穀物価格の高騰が牛群の縮小につながることを挙げており、通年での生乳出荷量は前年比0.6%減と見込まれている。

また、牧草の質の低下や飼料穀物給与量の減少による乳脂肪と乳タンパク質含有量の減少も見込まれており、チーズやバター生産に影響を及ぼすとされている。

表 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：千トン)

	2021年 5月	2022年 5月	前年同月比 (増減率)	2022年 (1～5月)	
				前年同期比 (増減率)	
ドイツ	2,877	2,826	▲ 1.8%	13,449	▲ 1.7%
フランス	2,236	2,193	▲ 1.9%	10,506	▲ 1.4%
オランダ	1,213	1,204	▲ 0.8%	5,761	▲ 2.0%
アイルランド	1,216	1,187	▲ 2.4%	3,673	▲ 1.1%
ポーランド	1,128	1,128	0.0%	5,411	1.9%
イタリア	1,117	1,114	▲ 0.3%	5,502	3.4%
スペイン	662	654	▲ 1.1%	3,152	▲ 0.6%
デンマーク	493	492	▲ 0.1%	2,364	0.4%
ベルギー	398	401	0.9%	1,893	0.5%
その他	2,044	1,991	▲ 2.6%	9,575	▲ 0.4%
合計	13,382	13,190	▲ 1.4%	61,286	▲ 0.5%

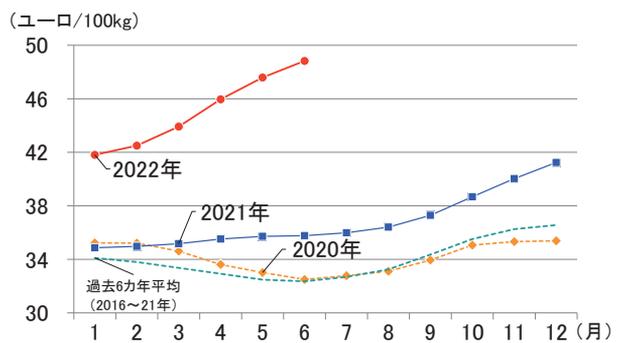
資料：欧州委員会「Eurostat」
 注1：速報値。
 注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

高騰する生乳取引価格

2022年6月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり48.83ユーロ（6775円：1ユーロ＝138.75円^(注)、前年同月比36.5%高）と16カ月連続で前年同月を上回った（図2）。

欧州委員会によると、乳製品需要が好調を維持する中で、今後も高止まり傾向が続くと

図2 生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」
 注1：直近月は推定値。
 注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

見込まれている。一方で、生乳取引価格は高騰しているものの、飼料費など資材費の高騰により生産者の収益は依然として厳しい状況にある。

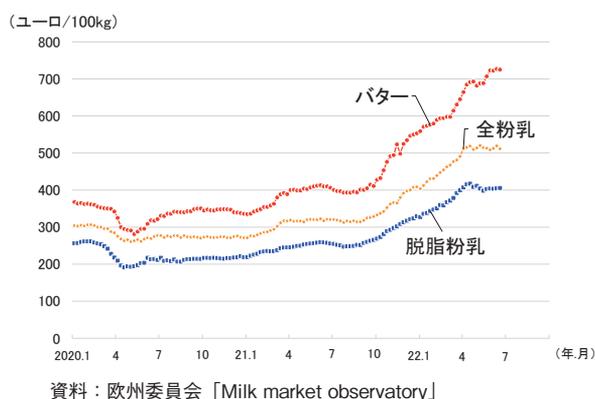
(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年7月末TTS相場。

乳製品価格は引き続き上昇傾向

生乳取引価格の上昇をけん引する直近7月17日の週の乳製品価格は、バターが100キログラム当たり720ユーロ（9万9900円）、脱脂粉乳が同389ユーロ（5万3974円）、全粉乳が同511ユーロ（7万901円）といずれも上昇もしくは高値で推移している（図3）。中でもバターの価格は、脱脂粉乳や全粉乳と異なり上昇を継続しており、オセアニア産の同価格を30%以上も上回っている。

欧州委員会によると、バター、脱脂粉乳、全粉乳の価格高騰の要因として、生乳出荷量が減少する中でチーズ生産が優先されるため、これらに仕向けられる生乳が減少していることが挙げられている。

図3 乳製品価格の推移



(調査情報部 渡辺 淳一)

N Z

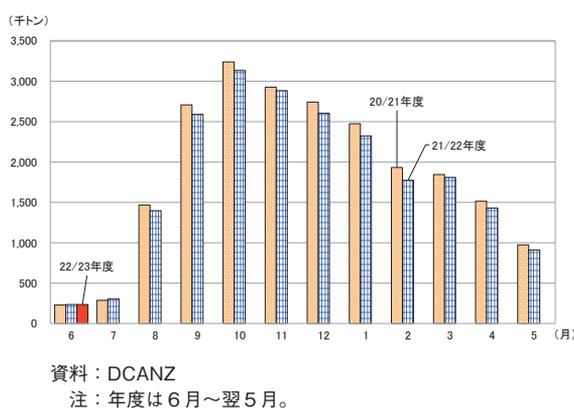
乳製品輸出量は減少も、世界的需要の高まりから輸出額は増加

2022/23年度の生乳生産量は、前年並みでスタート

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2022/23年度（6月～翌5月）の幕開けとなる22年6月の生乳生産量は、23万4000トン（前年同月比同）と前年並みとなった（図1）。ニュージーランド証券取引所（NZX）によると、秋期（3～5月）に分娩を終えた牛群が6月の良好な放牧環境を享受したことで生乳生産量が回復し、21年8月から続いた10カ月連続前年同月割れに歯止めがかかったとしている。

一方で、7月に入り降雨が続いたため日照不足となり、ニュージーランド（NZ）北島

図1 生乳生産量の推移



のワイカト地方では牧草の成長率が予測値を下回ったほか、今シーズンはラニーニャ現象による牧草の生育不順が見込まれているなど、生乳生産は依然として厳しい状況が続くと予測されている。

また、世界的な生乳生産量の減少による乳製品国際価格の高騰を受けて、NZ乳業大手のフォンテラ社は6月23日、今年度の生産者支払乳価を生乳の固形分^(注1) 1キログラム当たり平均9.0NZドル(780円: 1NZドル=86.64円^(注2))から同9.5NZドル(823円)へ引き上げると公表した。

(注1) 乳脂肪分および乳たんぱく質。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・中央平均の為替相場」の2022年7月末TTS相場。

乳製品輸出量、主要3品目が前年同月を下回る

ニュージーランド統計局(Stats NZ)に

よると、2022年6月の乳製品輸出量は、バターおよびバターオイルを除く主要3品目ですべて前年同月を下回った(表1、図2)。品目別に見ると、脱脂粉乳は、アラブ首長国連邦やインドネシア向けが前年同月を上回ったものの、最大の輸出先である中国向けが同2割程度減少したことで、全体でやや減少した。全粉乳は、最大の輸出先である中国向けをはじめ、主要輸出先のタイやスリランカ向けなどが落ち込んだことから、全体でも大幅に減少した。バターおよびバターオイルは、ベトナムやフィリピンなど東南アジア向けが前年同月を下回ったものの、最大の輸出先である中国向けをはじめ、日本や韓国向けが大

表1 乳製品輸出量の推移

(単位: トン)

品目	2021年 6月	2022年 6月	前年同月比 (増減率)	2021/22年度 (7月~翌5月)	
				前年同月比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	28,650	27,631	▲ 3.6 %	338,411	2.4 %
全粉乳	159,556	107,132	▲ 32.9 %	1,453,527	▲ 11.9 %
バターおよびバターオイル	36,475	37,635	3.2 %	408,895	▲ 2.2 %
チーズ	30,776	25,716	▲ 16.4 %	345,502	▲ 4.2 %

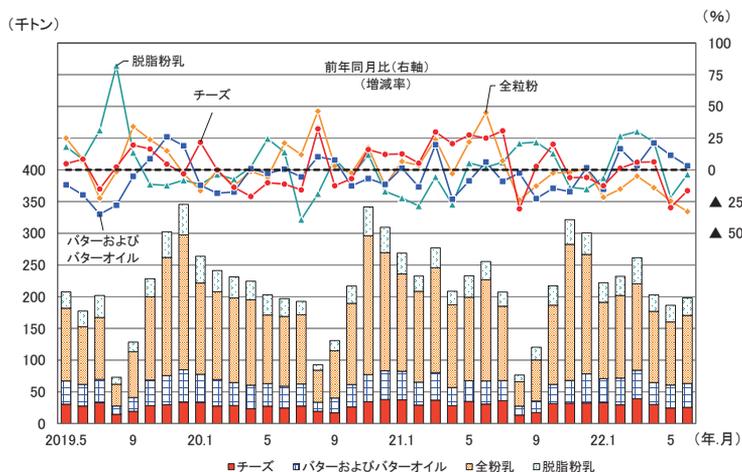
資料: Stats NZ

注1: HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2: 製品重量ベース。

注3: 年度は7月~翌6月。

図2 乳製品輸出量および前年同月比(増減率)の推移



資料: Stats NZ

注: 製品重量ベース。

幅に増加したことを受けて、全体ではやや増加した。チーズは、日本向けが前年同月を上回ったものの、豪州、中国、韓国向けなどが大幅に落ち込んだことで全体でも大幅に減少した。

一方で、世界的な乳製品需要の高まりを背景に、輸出単価は上昇基調にあり、6月の主要4品目の輸出額合計は15億2375万NZドル（1320億円、前年同月比4.7%増）と前年同月を上回る好調さを見せた。

GDT価格は、主要4品目すべてが前回より下落

2022年7月19日に開催されたGDT^(注3)の1トン当たりの平均取引価格は、主要4品目すべてで前回開催（同年7月5日）時から下落した（表2、図3）。NZXはこの理由として、COVID-19の拡大により、中国での乳製品需要の低迷が継続しているほか、スリランカの経済不安や北半球の市場参加者が夏休みに入ったことで需要が非常に少ない状態でオークションが開始されたためと推測している。

品目別に見ると、脱脂粉乳はEUや中東からの引き合いが強かったものの、北アジア^(注4)

からの引き合いが弱まったため、前回よりもかなりの程度下落した。全粉乳は東南アジアや中東からの買い付けが増加したものの、アフリカからの引き合いが落ち着いたため、価格はやや下落した。バターは、北アジアの応札が増加したものの、東南アジアからの引き合いが弱く、わずかに下落した。また、チーズは、EUや中東からの引き合いが強かったものの、東南アジアの買い付けが前回の半分程度であったため、全体ではわずかに下落した。

(注3) グローバルデイリートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。

(注4) ニュージーランド外務貿易省は、中国、日本、香港、韓国、台湾を北アジアとしている。

表2 GDT乳製品取引価格(2022年7月19日開催)
(単位：米ドル/トン、万円/トン)

品目	価格		前年比 (騰落率)	前回比 (騰落率)
	米ドル	万円		
脱脂粉乳	3,709	50.3	24.8 %	▲ 8.7 %
全粉乳	3,757	50.9	0.7 %	▲ 5.2 %
バター	5,530	75.0	25.1 %	▲ 2.1 %
チーズ	4,825	65.4	20.0 %	▲ 1.7 %

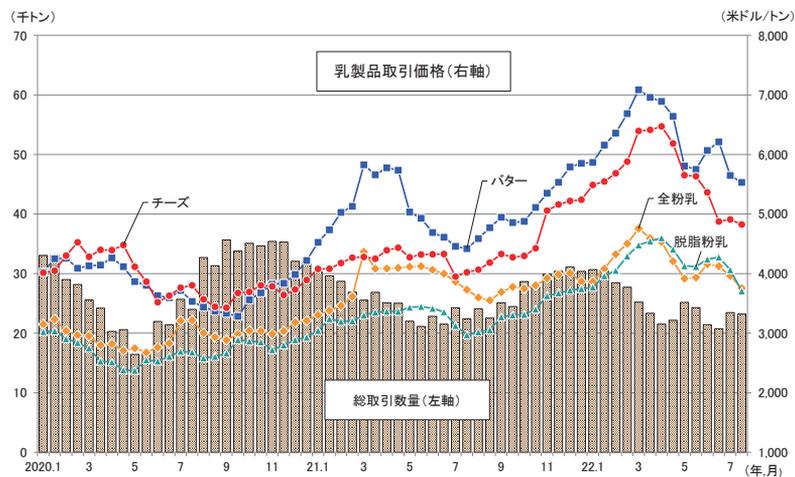
資料：GDT

注1：1米ドル=135.61円として計算。

注2：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月・年中平均の為替相場」の2022年7月末TTS相場。

注3：前は7月5日に開催。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



資料：GDT

(調査情報部 工藤 理帆)

主要乳製品輸入量、全品目で減少

生乳生産量は引き続き増加

中国国家统计局によると、2022年1～6月期の生乳生産量は、前年同期比8.4%増の1669万トンとなった(図1)。

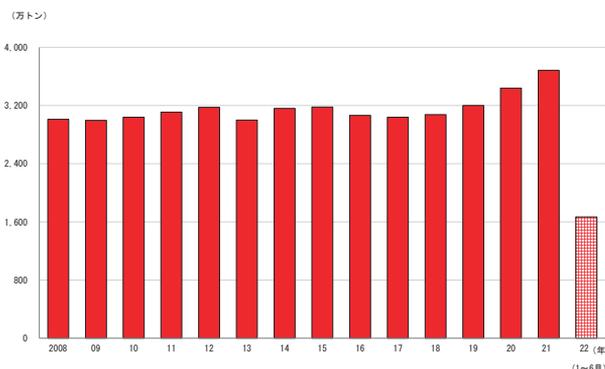
中国農業農村部と財政部は6月、内モンゴルなど酪農主産地の80県(注1)と、大都市周辺や特徴ある乳製品の生産地など20県に対し、耕畜連携やスマート畜産などを集中的に推進する施策(注2)を公表するなど、引き続き、酪農振興を推進していく姿勢を見せている。

(注1) 中国では、大きい行政区分から順に、「省級(省、直轄市など)」、「地級(地級市、自治州など)」、「県級(県、県級市、市轄区など)」などとなっている。

(注2) 22・23年、24・25年に各50県ずつを支援。対象県に対し、1年目に2000万元(4億5000万円：1元＝20.25円(注3))、2年目に1年目の実績などに基づいた額が交付される。

(注3) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年7月末TTS相場。

図1 生乳生産量の推移



資料：中国国家统计局、中国乳業年鑑

生乳価格は引き続き緩やかに下落

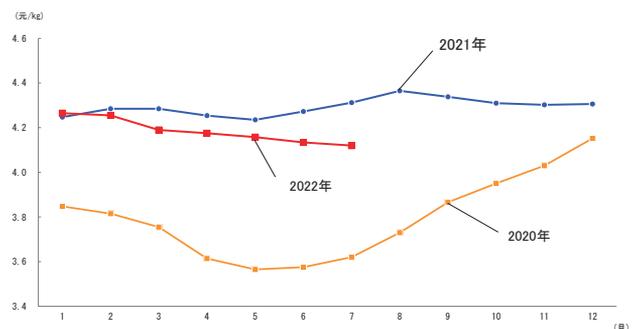
生乳価格は、2022年に入り高値ながらも緩やかに下落しており、同年7月には1キログラム当たり4.12元(83円)となった(図2)。価格下落の要因としては、国内での生乳生産

量の増加や長引くCOVID-19による需要の減少などが挙げられる。

現地では、今後も大幅な下落はないとの見方が大勢を占めているが、仮に22年1月から7月までの下落率が今後も継続すれば、12月には、多くの酪農家が赤字経営に陥るとされる同4元(81円)(注4)の水準を切る事となるため、今後の動向が注目されている。

(注4) 詳細は、「畜産の情報」2022年5月号「21年の生乳生産量と乳製品輸入量はともに増加、乳価も高値で推移」(https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002163.html)を参照されたい。

図2 生乳価格の推移



資料：中国農業農村部

注：主要10省・自治区(全国の生乳生産量の8割以上を占める)の農家庭先価格の平均。

乳製品輸入量は全品目で減少も、一 部品目の輸入額は増加

2022年1～6月の主要乳製品輸入量は、前年同期比37.1%減となったホエイを筆頭に、すべての品目で減少した(表)。

一方で輸入額に注目すると、全品目で輸入量ほどの落ち込みは見られず、全粉乳(139億円<2815億円>、同13.1%増)およびバター(22億円<446億円>、同24.7%増)

では増加するなど、乳製品国際価格の高騰を反映した結果となった。これを受けて現地専門家からは、今回の輸入量減少の要因について、乳製品国際価格の高騰により輸入製品の価格優位性が低下し、国産志向が高まったためとの意見が出ている。一方で、前年同期の

輸入実績が非常に大きかったことも減少の一因として考慮する必要があるものの、長引くCOVID-19の影響で経済が停滞しており、国産も含めた乳製品全体の消費が振るわない状況にあるとの意見も出ている。

表 主な乳製品の品目別輸入数量の推移

(単位：万トン)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	
					(1～6月)	前年同期比 (増減率)
全粉乳	52.1	67.1	64.4	84.9	50.3	▲6.0%
脱脂粉乳	28.0	34.4	33.6	42.6	17.3	▲25.1%
飲用乳	54.4	72.9	84.5	99.6	39.3	▲21.9%
ヨーグルト	2.7	3.2	2.8	2.5	1.3	—
チーズ	10.8	11.5	12.9	17.6	7.8	▲20.1%
バター	8.7	6.2	8.6	9.7	5.7	▲6.6%
育児用調製粉乳	33.3	35.6	34.8	27.3	12.9	▲3.9%
ホエイ	55.5	45.1	62.3	71.8	24.9	▲37.1%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、全粉乳が0402.21と0402.29、脱脂粉乳が0402.10、飲用乳が0401.10と0401.20、ヨーグルトは0403.10（2021年まで）と0403.20（2022年）、チーズが0406、バターが0405.10、育児用調整粉乳が1901.10、ホエイが0404.10。なお、ヨーグルトは、2022年1月1日のHS品目表の改訂により、市場実態に合わせてヨーグルトの範囲が拡大されたため、22年とそれ以前のデータに連続性はない。

(調査情報部 阿南 小有里)

飼料穀物

世界

2022/23年度の世界のトウモロコシ、期末在庫は前年度並みの見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2022年7月12日、2022/23年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、世界のトウモロコシ生産量は11億8590万トン（前年度比2.6%減）と前月から9万トン上方修正されたものの、過

去最高となった前年度をわずかに下回ると見込まれている。国別に見ると、米国の生産量が作付面積の増加を踏まえて前月から114万トン上方修正された一方で、ロシアの作付面積減少から生産量が下方修正されたことで、これが吸収される形となった。その他の主要国の生産量はいずれも前月から据え置かれた。

輸入量は、世界全体で1億7708万トン（同1.2%減）と前月から40万トン上方修正されたが、前年度からわずかな減少が見込まれている。

消費量は、世界全体で11億8524万トン（同1.1%減）と前月から104万トン下方修

正され、前年度からわずかな減少が見込まれている。国別に見ると、EUが20万トン、ロシアが30万トンそれぞれ下方修正された。最大の消費国である中国は2億9500万トンと前月から据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億8257万トン（同

表 主要国のトウモロコシの需給見通し（2022年7月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

区 分	2020/21年度	2021/22年度	2022/23年度		前年度比 (増減率)
		(推計値)	(6月予測)	(7月予測)	
米国					
期首在庫	48.76	31.36	37.71	38.35	22.3%
生産量	358.45	383.94	367.30	368.44	▲ 4.0%
輸入量	0.62	0.64	0.64	0.64	0.0%
消費量	306.54	315.36	309.13	309.13	▲ 2.0%
輸出量	69.92	62.23	60.96	60.96	▲ 2.0%
期末在庫	31.36	38.35	35.55	37.33	▲ 2.7%
アルゼンチン					
期首在庫	3.62	1.18	1.49	1.49	26.3%
生産量	52.00	53.00	55.00	55.00	3.8%
輸入量	0.01	0.01	0.01	0.01	0.0%
消費量	13.50	13.70	14.00	14.00	2.2%
輸出量	40.94	39.00	41.00	41.00	5.1%
期末在庫	1.18	1.49	1.49	1.49	0.0%
ブラジル					
期首在庫	5.33	4.15	4.65	4.65	12.0%
生産量	87.00	116.00	126.00	126.00	8.6%
輸入量	2.85	2.00	1.30	1.30	▲ 35.0%
消費量	70.00	73.00	77.00	77.00	5.5%
輸出量	21.02	44.50	47.00	47.00	5.6%
期末在庫	4.15	4.65	7.95	7.95	71.0%
ウクライナ					
期首在庫	1.48	0.83	6.77	6.77	8.2倍
生産量	30.30	42.13	25.00	25.00	▲ 40.7%
輸入量	0.02	0.02	0.00	0.00	-
消費量	7.10	12.20	10.70	10.70	▲ 12.3%
輸出量	23.86	24.00	9.00	9.00	▲ 62.5%
期末在庫	0.83	6.77	12.07	12.07	78.3%
中国					
期首在庫	200.53	205.70	210.24	210.24	2.2%
生産量	260.67	272.55	271.00	271.00	▲ 0.6%
輸入量	29.51	23.00	18.00	18.00	▲ 21.7%
消費量	285.00	291.00	295.00	295.00	1.4%
輸出量	0.00	0.02	0.02	0.02	0.0%
期末在庫	205.70	210.24	204.22	204.22	▲ 2.9%
世界計					
期首在庫	307.46	293.29	310.92	312.28	6.5%
生産量	1,129.00	1,217.87	1,185.81	1,185.90	▲ 2.6%
輸入量	185.22	179.15	176.68	177.08	▲ 1.2%
消費量	1,143.17	1,198.88	1,186.28	1,185.24	▲ 1.1%
輸出量	182.82	199.23	182.67	182.57	▲ 8.4%
期末在庫	293.29	312.28	310.45	312.94	0.2%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/中国、ウクライナ：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

8.4%減)と前月から10万トン下方修正され、前年度からかなりの程度減少が見込まれている。国別に見ると、ウクライナが前月と同様に1000万トン割れが見込まれる中で、ロシアが50万トン下方修正された。一方で、パラグアイが70万トン上方修正されたことで、

これが吸収される形となった。

この結果、期末在庫は3億1294万トン(同0.2%増)と前月から249万トン上方修正されている。

(調査情報部 水野 崇)

米国の下方修正も、南米での生産回復などで大豆の期末在庫は大幅増

米国農務省世界農業観測ボード(USDA/WAOB)および米国農務省海外農業局(USDA/FAS)は2022年7月12日、2022/23年度の世界の大豆需給予測値を更新した(表)。

これによると、世界の生産量は3億9140万トン(前年度比11.0%増)と前月から397万トン下方修正された。うち、最大の生産国であるブラジルは据え置かれたが、これに続く米国はトウモロコシ作付面積の上方修正などから367万トン下方修正された。

輸入量は、世界全体で1億6612万トン(同8.3%増)と前月から100万トン下方修正された。最大の輸入国である中国での増産見通しによる下方修正が反映されている。

消費量(搾油仕向け)は、世界全体で3億2713万トン(同4.3%増)と前月から5万

トン下方修正された。うち、最大の消費国である中国は9500万トンと前月から据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億6889万トン(同9.6%増)と前月から142万トン下方修正された。うち、最大の大豆輸出国であるブラジルは50万トン上方修正されたが、これに続く米国が生産量の減少見込みから176万トン下方修正されたことが反映されている。

この結果、期末在庫は9961万トン(同12.3%増)と前月から85万トン下方修正された。前年度の期末在庫は、南米での減産などから15/16年度以来となる8千万トン台に落ち込んだが、22/23年度は南米での増産予測を受けて18/19年度以来の1億トン台に迫る水準が見込まれている。

表 主要国の大豆需給見通し（2022年7月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

区 分	2020/21年度	2021/22年度	2022/23年度			
		(推計値)	(6月予測)	(7月予測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	14.28	6.99	5.58	5.85	▲ 16.3%
	生産量	114.75	120.71	126.28	122.61	1.6%
	輸入量	0.54	0.41	0.41	0.41	0.0%
	消費量	58.26	60.01	61.37	61.10	1.8%
	輸出量	61.52	59.06	59.87	58.11	▲ 1.6%
	期末在庫	6.99	5.85	7.61	6.27	7.2%
ブラジル	期首在庫	20.42	29.40	21.86	22.46	▲ 23.6%
	生産量	139.50	126.00	149.00	149.00	18.3%
	輸入量	1.02	0.55	0.75	0.75	36.4%
	消費量	46.68	49.25	49.00	49.50	0.5%
	輸出量	81.65	81.00	88.50	89.00	9.9%
	期末在庫	29.40	22.46	30.76	30.36	35.2%
アルゼンチン	期首在庫	26.65	25.06	20.65	22.10	▲ 11.8%
	生産量	46.20	44.00	51.00	51.00	15.9%
	輸入量	4.82	2.90	4.80	4.80	65.5%
	消費量	40.16	40.40	41.00	41.00	1.5%
	輸出量	5.20	2.25	4.70	4.70	108.9%
	期末在庫	25.06	22.10	23.50	24.95	12.9%
中国	期首在庫	24.61	31.16	30.74	30.74	▲ 1.3%
	生産量	19.60	16.40	17.50	17.50	6.7%
	輸入量	99.76	90.00	99.00	98.00	8.9%
	消費量	93.00	87.00	95.00	95.00	9.2%
	輸出量	0.07	0.10	0.10	0.10	0.0%
	期末在庫	31.16	30.74	31.56	30.56	▲ 0.6%
世界計	期首在庫	94.65	99.83	86.15	88.73	▲ 11.1%
	生産量	368.13	352.74	395.37	391.40	11.0%
	輸入量	165.47	153.44	167.12	166.12	8.3%
	消費量	315.14	313.74	327.18	327.13	4.3%
	輸出量	164.52	154.16	170.31	168.89	9.6%
	期末在庫	99.83	88.73	100.46	99.61	12.3%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月／ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

(調査情報部 横田 徹)

米 国

2022/23年度の米国トウモロコシ、在庫率は10%台の見込み

USDA/WAOBは2022年7月12日、2022/23年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを更新した（表）。

生産量は、145億500万ブッシェル（3億6844万トン^{（注1）}、前年度比4.0%減）と前月から4500万ブッシェル（114万トン）上方修正されたが、前年度からやや減少すると見込まれている。

消費量は、121億7000万ブッシェル（3億913万トン、同2.0%減）と前月から据え置かれ、前年度からわずかな減少が見込まれている。

輸出量は、24億ブッシェル（6096万トン、同2.0%減）と前月から据え置かれ、前年度からわずかに減少すると見込まれている。

この結果、期末在庫は、21/22年度の国内消費量のうち飼料など向けの下方向修正を受けた22/23年度の期首在庫の上方修正により、14億7000万ブッシェル（3733万トン、同2.6%減）と前月から7000万ブッシェル（178万トン）上方修正されたが、前年度をわずかに下回ると見込まれている。

また期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は10.1%（同0.1ポイント減）と、10%台の水準まで回復すると見込まれている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり6.65米ドル（902円。1キログラム当たり35.5円：1米ドル＝135.61円^{（注2）}）と前月から下方向修正されたが、前年度からかなり

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2022年7月12日米国農務省公表）

区 分	－単位－	2020/21 年度	2021/22 年度 (推計値)	2022/23年度			前年度比 (増減率)
				(6月予測)	(7月予測)	参考(換算値)	
作付面積	(百万エーカー)	90.7	93.4	89.5	89.9	36.4 (百万ヘクタール)	▲3.7%
収穫面積	(百万エーカー)	82.3	85.4	81.7	81.9	33.1 (百万ヘクタール)	▲4.1%
単収	(ブッシェル/エーカー)	171.4	177.0	177.0	177.0	11.1 (トン/ヘクタール)	0.0%
生産量	(百万ブッシェル)	14,111	15,115	14,460	14,505	368.44 (百万トン)	▲4.0%
輸入量	(百万ブッシェル)	24	25	25	25	0.64 (百万トン)	0.0%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,919	1,235	1,485	1,510	38.35 (百万トン)	22.3%
総供給量	(百万ブッシェル)	16,055	16,375	15,970	16,040	407.43 (百万トン)	▲2.0%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,068	12,415	12,170	12,170	309.13 (百万トン)	▲2.0%
飼料など向け	(百万ブッシェル)	5,597	5,600	5,350	5,350	135.90 (百万トン)	▲4.5%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,471	6,815	6,820	6,820	173.23 (百万トン)	0.1%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,033	5,375	5,375	5,375	136.53 (百万トン)	0.0%
輸出量	(百万ブッシェル)	2,753	2,450	2,400	2,400	60.96 (百万トン)	▲2.0%
総消費量	(百万ブッシェル)	14,821	14,865	14,570	14,570	370.09 (百万トン)	▲2.0%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,235	1,510	1,400	1,470	37.33 (百万トン)	▲2.6%
期末在庫率	(%)	8.3	10.2	9.6	10.1		0.1ポイント減
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	4.53	5.95	6.75	6.65	35.5 (円/kg)	11.8%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1エーカーは約0.4047ヘクタール。

大きく上昇し、12/13年度に記録した同6.89米ドル以来の高値が予測されている。

(注1) 1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年7月末TTS相場。

(調査情報部 水野 崇)

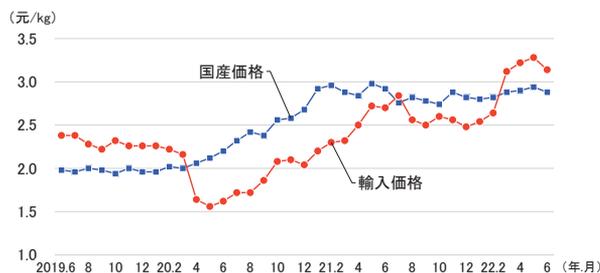
中国

トウモロコシおよび大豆の価格動向

国産トウモロコシ価格、需給の緩みから弱含み

中国農業農村部は7月22日、「農産物需給動向分析月報（2022年6月）」を公表した。この中で2022年6月の国産トウモロコシ価格は、前月からわずかに下落するもおおむね横ばいで推移している（図1）。国内のトウモロコシ需給動向を見ると、供給面では、今後の収穫期に備えて一部の穀物貯蔵在庫の出荷が進むなどで安定している。一方で需要面では、飼料や工業向けの利用が低水準にある中で備蓄米の放出が続いており、これが代替飼料などとして使われることで末端での在庫は十分な状態としている。このため、需給は全体的に緩んでおり、同価格は当面、横ばいから弱含みで推移すると予測している。

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

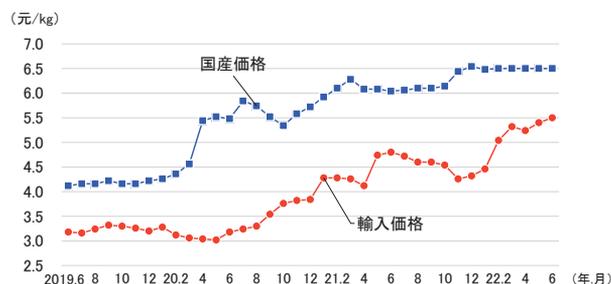
注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

主要養豚生産地である中国南部向け飼料原料集積地となる広東省黄埔港到着の輸入トウモロコシ価格（関税割当数量内：1%の関税＋25%の追加関税）は、22年6月が1キログラム当たり3.14元（64円：1元＝20.25円^(注)）となった。同価格は前月から下落しつつも、国産価格を下回っていた同年2月の価格に比べ2割近く上昇している。また、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）同2.88元（58円）に比べて同0.26元（5円）高となり、3月に逆転した国産と輸入との価格差は縮まっている。

国産大豆価格、供給量の制約から高値安定

2022年6月の国産大豆価格は、前月と同じく高値安定で推移している（図2）。6月も主産地からの供給量は減少しており、新穀の供給が開始されるまでの間、国産大豆価格は高値安定での推移が見込まれている。通常、夏場を迎えて南部を中心に消費の端境期に入るため、一般的に大豆市場の動きは鈍化傾向となる。しかし今年は、流通業者などが手持ち在庫の販売を控えて価格の維持に努めており、また、6月下旬に北京で1キログラム当たり6元を上回る水準で国産大豆の買い付けが行われたことも、同価格を支える一因とされている。

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、6月が1キログラム当たり6.14元（124円、前年同月比7.3%高）と引き続き高い水準にある。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同6.50元（132円、同7.7%高）と同じく高い水準で推移し

ている。国産大豆と輸入大豆との価格差は、大豆国際相場の上昇などからわずかに縮小し、1キログラム当たり1.00元（20円）となった。

このような中で、大豆の輸入量は前年同期比で減少しながらも比較的高い水準で推移している。22年（1～5月）の輸入量は3804万8000トン（前年同期比0.4%減）となった。また、輸入額は世界的な穀物相場高騰の影響から同24.7%増の241億6600万米ドル（3兆2772億円：1米ドル＝135.61円^(注)）と報告されている。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年7月末TTS相場。

(調査情報部 横田 徹)